

論文内容要旨

論文題目

看護職者のスキンケア指導の学習意欲を高めるツール開発のための基礎的研究

教育・研究領域：高齢社会看護学・生涯生活支援看護学

氏 名： 高橋 育子

【内容要旨】(1,200 字以内)

乳児のスキンケア指導について、施設や看護職者によってスキンケア指導内容が異なっていること、養育者は乳児に対して「泡立てた洗剤剤を使用して、全身を素手で洗い、洗剤剤をしっかりとすすいだ後に保湿ケアを継続する」というエビデンスに基づいたスキンケアを行えておらず、多くの養育者が乳児に対するスキンケアに対して不安、困難感を有していることが示されている。そのため、養育者がエビデンスに基づいたスキンケアができるように看護職者の養育者へのスキンケア指導が重要である。本研究では、施設や看護職者によってスキンケア指導内容が異なっていることを踏まえ、看護職者の養育者に対するスキンケア指導の学習意欲を高めるツール開発が必要であると考え、ツール開発のための知見を得るために学習意欲向上の動機づけモデルである ARCS (Attention (注意・関心), Relevance (関連性), Confidence (自信), Satisfaction (満足感)) モデルに基づき横断研究を行った。対象は、東北地方の保健センター150 か所と分娩取扱施設 151 施設の看護職者 176 名 (保健師 74 名 (42.0%), 助産師 61 名 (34.7%), 看護師 40 名 (22.7%), 准看護師 1 名 (0.6%)) であり、各施設長宛てに研究依頼文書を郵送しインターネットを利用した無記名自記式調査を 2023 年 1-3 月に実施した。研究は山形大学医学部倫理審査委員会 (承認番号 2022-225) の承認後に実施した。その結果、【注意・関心】では、83 名 (47.2%) の看護職者が定期的に情報のアップデートを行っており、「勉強会等に参加したい」または「勉強会にどちらかといえば参加したい」と回答した看護職者は 170 名 (96.6%) で、ほとんどの看護職者が乳児のスキンケアの重要性と必要性について認識していた。【関連性】では、スキンケア指導ツールの存在を知っていたものが 57 名 (32.4%) で、スキンケアの学習と指導実践を、パンフレットや動画のツールが望ましいと考えていた。【自信】では、指導の不安が「とてもある」もしくは「少しある」と回答したものが 129 名 (73.3%) であった。8 割以上の看護職者がスキンケア指導で必要と考える指導内容として「保湿剤の塗り方」、「皮膚トラブルの対処方法」、「スキンケアの必要性」、「乳児の皮膚の特徴」、「皮膚トラブル時の受診のタイミング」、「洗い方の手技」を選択した。エビデンスに基づいたスキンケアの知識と指導技術獲得には、これらの内容を含める必要性があり、【満足感】では、スキンケア指導への満足感は、養育者からの相談に答えられる学習内容であることが明らかとなった。養育者からの相談内容として最も多かったのは「皮膚トラブルの対処法」121 名 (73.3%) であった。

今後、本研究結果が看護職者のスキンケア指導の学習意欲を高めるツールの開発につながることを期待される。

令和 6 年 7 月 26 日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学 位 論 文 審 査 結 果 報 告 書

申請者氏名：高橋 育子

論文題目：看護職者のスキンケア指導の学習意欲を高めるツール開発のための基礎的研究

審査委員：主審査委員 藤田 愛

印

副審査委員 片岡 ひとみ

印

副審査委員 櫻田 香

印

審査終了日：令和 6 年 7 月 23 日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

乳児のスキンケア指導について、施設や看護職者によってスキンケア指導内容が異なっていること、養育者は乳児に対してエビデンスに基づいたスキンケアを行えておらず、多くの養育者が乳児に対するスキンケアに対して不安、困難感を有していることが示されている。そのため、養育者がエビデンスに基づいたスキンケアができるように看護職者のスキンケア指導が重要である。本研究では、看護職者の養育者に対するスキンケア指導の学習意欲を高めるツール開発のための知見を得るため、学習意欲向上の動機づけモデルである ARCS (Attention (注意・関心), Relevance (関連性), Confidence (自信), Satisfaction (満足感)) モデルに基づき横断研究を行った。対象は、東北地方の保健センターと分娩施設の看護職者 176 名であり、インターネットを利用した無記名自記式調査を実施した。その結果、【注意・関心】では、乳児のスキンケアの重要性と必要性について認識していた。【関連性】では、スキンケアの学習と指導実践を、パンフレットや動画のツールが望ましいと考えていた。【自信】では、エビデンスに基づいたスキンケアの知識と指導技術獲得には、知識と技術の内容を含める必要性があり、【満足感】では、スキンケア指導への満足感は、養育者からの相談に答えられる学習内容であることが明らかとなった。以上のことから、今後、看護職者のスキンケア指導の学習意欲を高めるツールの開発につながることを示唆された。

上記研究内容を、論文および口頭発表に基づいて、慎重に審査した結果、研究目的が明確で、方法も妥当であり、得られた結果は、今後看護職者のスキンケア指導の学習意欲を高めるツール開発に有用な基礎データであることから、本研究は学位論文（博士）として相応しいものと評価した。